R8/1/29　令和７年度医療審議会地域保健医療部会

資料２－３

●がん

※の数値目標及び目標設定年（度）は「健康ちば21（第3次）」と同様としています。

【がん予防の普及・啓発】

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
喫煙（受動喫煙を含む）に関する知識の普及啓発	街頭キャンペーンの実施回数、参加者数	開催回数：１回 （令和４ 年度）	１回		設定なし※1
	啓発物資の作成数、配布数	・学ぼう！たばこの健康影響について　62,000 部配布 ・ＣＯＰＤクチラシ　30,000 部配布 ・この中にいくつあるかわかる？タバコが原因の病気（ポケットティッシュ）　58,000 個配布 ・知っておきたいたばこと健康について　23,000 部配布 ・守るのはあなたですタバコとお酒が妊婦へ与える影響　45,000 部配布 ・なくそう！望まない受動喫煙（ウェットティッシュ）　78,000 個配布 ・STOP!!受動喫煙（カイロ）50,000 個配布 （令和４ 年度）	・学ぼう！たばこの健康影響について58,000部配布 ・ＣＯＰＤクラシ 21,700部配布 ・この中にいくつあるかわかる？タバコが原因の病気（ポケットティッシュ）56,000個配布 ・知っておきたいたばこと健康について18,000部配布 ・守るのはあなたですタバコとお酒が妊婦へ与える影響43,000部配布 ・なくそう！望まない受動喫煙（ウェットティッシュ）73,850個配布 ・STOP!!受動喫煙（カイロ）44,000個配布		〃
喫煙者の禁煙を支援	研修の実施回数、参加者数	開催回数1 回 受講者数103 名 （令和４ 年度）	開催回数1回 受講者数169名		〃
	禁煙治療に関するリーフレットの作成枚数、配布枚数	禁煙啓発用ポケットティッシュ5,000 個配布 （令和４ 年度）	禁煙啓発用ポケットティッシュ4,000個配布		〃
	禁煙指導者研修会開催回数、参加者数	開催回数1 回 受講者数103 名 （令和４ 年度）	開催回数1回 受講者数169名		〃
	禁煙治療に関する情報のホームページ等への掲載状況	千葉県ホームページに掲載	千葉県ホームページに掲載		〃
ライフステージに応じた適正な食生活を送るための普及啓発	啓発物資の作成数、配布数	ちょっとプラスの工夫で簡単にバランスの良い食事を！、ふやそう野菜・へらそう塩リーフレット、健康のために食事を考えてみたいあなたへ　計600部配布（がん予防展） （令和４ 年度）	・ふやそう野菜・へらそう塩クリアファイル、グーパー食生活ガイドブック概要版リーフレット　計400部配布（がん予防展） ・グーパー食生活ガイドブック概要版リーフレット、健康のために食事を考えてみたいあなたへ　計3,000部配布（ﾋﾟﾝｸﾘﾎﾞﾝｷｬﾝﾍﾟｰﾝ）		〃

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
喫煙する者の割合の減少	男性の喫煙率 女性の喫煙率	男性21.9% 女性6.9% （令和３ 年度）	男性17.7% 女性5.8% （令和6年度）	△	男性12.0% 女性5.0% （令和14 年度）※
未成年の喫煙をなくす	１５～１９歳の喫煙率	男性1.6% 女性1.2% （令和３ 年度）	男性0% 女性0% （令和6年度）	○	0% （令和14 年度）※
妊婦の喫煙をなくす	妊婦の喫煙率	1.5% （令和３ 年度）	－	―	0% （令和14 年度）※
受動喫煙防止対策	行政機関の禁煙実施率	2.1% （令和３ 年度）	2.1% （令和6年度）	⇒	望まない受動喫煙のない社会の実現 （令和14 年度）※
	医療施設の禁煙実施率	3.7% （令和３ 年度）	3.1% （令和6年度）	△	望まない受動喫煙のない社会の実現 （令和14 年度）※
	職場、家庭、飲食店で受動喫煙の機会を有する人の割合	職 場：19.5% 家 庭：５.0% 飲 食 店：16.0% （令和３ 年度）	職場：17.6% 家庭：5.0% 飲食店：18.9% （令和6年度）	⇒	望まない受動喫煙のない社会の実現 （令和14 年度）※
成人の１日当たりの平均食塩摂取量の減少	男性平均摂取量 女性平均摂取量	男性10.9g 女性9.4g （平成27 年度）	－	―	男性7.5g 女性6.5g （令和14 年度）※
成人の１日当たりの野菜の平均摂取量の増加	成人平均摂取量	308g （平成27 年度）	－	―	350g （令和14 年度）※
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少（１日当たりの純アルコール摂取量）	男性40g以上の割合	男性13.5% （令和３ 年度）	男性13.3% （令和6年度）	△	男性10.0% （令和14 年度）※
	男性40g以上の割合	女性9.4% （令和３ 年度）	女性10.4% （令和6年度）	×	女性6.4% （令和14 年度）※

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
がんの年齢調整死亡率減少	がんの年齢調整死亡率 （75歳未満、全年齢）	男性 79.5 女性 54.3 （令和３ 年）	－	―	減少 （令和11 年度）
がん患者とその家族が、がんと向き合いながら、生活の質を維持向上させ、安心して暮らせる社会を目指す	患者体験調査 （満足度）	なし	なし	―	検討中

【がん検診の受診率向上と精度管理】

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
がん検診の必要性や重要性などがんに関する正しい知識の普及啓発	啓発イベント実施状況（実施回数、参加者数）	実施回数：２回（①がん予防展・がん講演会②ピンクリボンキャンペーン） 参加者数：①がん予防展：約1000 名、がん講演会：266 名②1220 名（啓発グッズ配布枚数） （令和４ 年度）	実施回数：２回（①がん予防展・がん講演会②ピンクリボンキャンペーン） 参加者数：①がん予防展：約700名、がん講演会：402名②1,500名 （啓発グッズ配布数） （令和6年度）		〃 〃
科学的かつ効果的な受診勧奨の推進及び市町村への好事例の共有	市町村等がん検診担当者研修会の開催状況（開催回数、参加者数、実施テーマ）	開催回数：1 回 参加者数：約80 名（Zoom 入室数） 実施テーマ：がん検診事業の基礎、令和4年度個別検診機関における精度管理調査の概要、市町村チェックリストの各チェックリスト項目のとらえ方について （令和４ 年度）	開催回数：1回 参加者数：155名（オンライン及び現地開催） 実施テーマ：ナッジ等行動科学を活用した検診受診率向上へ向けた取組ついて (令和6年度)		〃
	受診勧奨実施市町村数	集計中	集計中		〃
県全体におけるがん検診の精度管理の向上	集団検診機関及び個別検診機関におけるがん検診精度管理調査において評価がAまたはBの機関数	集団検診機関 胃がん(X 線)：8 機関（8 機関中）、大腸がん：13 機関（14 機関中） 肺がん：15 機関（15機関中）、乳がん：6 機関（6 機関中） 子宮頸がん：2 機関（2 機関中） 個別検診機関 胃がん(X線)：114機関（137機関中） 胃がん（内視鏡）：224機関（229機関） 大腸がん：715機関（782機関中）、肺がん：463機関（582機関中） 乳がん：143機関（187機関中）、子宮頸がん：270機関（313機関中） （令和４ 年度）	集団検診機関 胃がん(X線)：7機関（7機関中）大腸がん：12機関（12機関中） 肺がん：13機関（13機関中）乳がん：5機関（5機関中） 子宮頸がん：2機関（2機関中） 個別検診機関 胃がん(X線)：130機関（137機関中）胃がん(内視鏡)：271機関（271機関中） 大腸がん：842機関（866機関中）肺がん：578機関（650機関中） 乳がん：179機関（201機関中）子宮頸がん：310機関（323機関中） (令和4年度)		〃
	市町村におけるがん検診精度管理調査における実施率	・集団検診 胃がん（ エックス線）：88.9%、大腸がん：86.5%、 肺がん：88.3%、乳がん：86.8%、子宮頸がん：88.6% ・個別検診 胃がん（ エックス線）：82.9%、胃がん（内視鏡）：85.7%、 大腸がん：84.5%、肺がん：82.0%、乳がん：80.0%、 子宮頸がん：78.5% （令和３年度）	・集団検診 胃がん（エックス線）：92.5%大腸がん：90.3% 肺がん：92.5%乳がん：92.5% 子宮頸がん：92.5% ・個別検診 胃がん（エックス線）：82.9%胃がん（内視鏡）：87.4% 大腸がん：83.8%肺がん：82.7% 乳がん：79.4%子宮頸がん：85.8% (令和6年度)		〃
	医師等を対象とした従事者研修会の実施状況（実施回数、参加者数）	開催回数：1 回 受講者数：143 名 （令和６年度）	開催回数：1 回 受講者数：90 名 （令和６年度）		〃
国の指針に基づいたがん検診の実施を推進	指針に基づくがん検診を実施している市町村数	集計中	集計中		〃
	指針に基づかないがん検診の中止市町村数	集計中	集計中		〃

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
がん検診の受診率向上	胃がん（50～69歳）	49.8% （令和４ 年）	－	―	60% （令和10 年度）
	肺がん（40～69歳）	52.2% （令和４ 年）	－	―	60% （令和10 年度）
	大腸がん（40～69歳）	46.2% （令和４ 年）	－	―	60% （令和10 年度）
	乳がん（40～69歳、過去２年）	55.0% （令和４ 年）	－	―	60% （令和10 年度）
	子宮頸がん（20～69歳、過去２年）	47.5% （令和４ 年）	－	―	60% （令和10 年度）
精密検査受診率の向上	胃がん	85.2% （令和2 年度）	－	―	90% （令和10 年度）
	肺がん	83.3% （令和2 年度）	－	―	90% （令和10 年度）
	大腸がん	67.3% （令和2 年度）	－	―	90% （令和10 年度）
	乳がん	91.7% （令和2 年度）	－	―	90% （令和10 年度）
	子宮頸がん	77.9% （令和2 年度）	－	―	90% （令和10 年度）

【がん診療連携拠点病院等を中心とした医療連携】

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
がん診療連携拠点病院等を中心とした医療提供体制の推進	千葉県がん診療連携協議会開催数	26 回 （令和４ 年度）	25回 （令和6年度）		〃
がん患者が継続した口腔ケアを受けるための医科歯科連携の取り組み	千葉県がん診療連携協議会口腔ケア専門部会開催数	2 回 （令和４ 年度）	1回 （令和6年度）		〃
口腔ケアの重要性についての普及啓発	啓発物資の作成数、配布数	口腔ケアハンドブック　20 部配布 口腔がんを予防しましょう　600 部配布 （令和４ 年度）	0回 千葉県がん診療連携協議会としての活動なし （令和6年度）		〃

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
がん診療連携拠点病院等における、がん医療の質向上	PDCAサイクル実施件数	16 件 （令和４ 年度）	16件 （令和6年度）	⇒	増加 （令和11 年度）
口腔ケアの地域医療連携	口腔ケアの地域医療連携を行っているがん診療連携拠点病院等の施設数	12 病院 （令和５ 年度）	14 病院 （令和6年度）	○	増加 （令和11 年度）

【がんと診断された時からの緩和ケアの推進】

緩和ケア研修の充実	緩和ケア研修会受講者数（医師・歯科医師、その他の職種）	拠点病院医師・歯科医師　4340 名 拠点病院以外の医師・歯科医師　1418 名 その他の職種 1874名 （令和５年３月までの累計）	拠点病院医師・歯科医師　4988 名 拠点病院以外の医師・歯科医師　1581 名 その他の職種 2141名 （令和７年３月までの累計）		〃
相談や支援を受けられる体制の強化	拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	5,804 件 （令和３年）	6,138 件 （令和5年）		〃
拠点病院等における緩和ケア提供体制の充実	千葉県がん診療連携協議会緩和医療専門部会開催数	2 回 （令和４年度）	2 回 （令和６年度）		〃
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修を修了した医師数の増加	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会を修了した医師数	拠点病院等　4,341 名 拠点病院等以外　1,409名 （令和5 年3 月までの累計）	拠点病院医師・歯科医師：4,988 名 拠点病院以外の医師・歯科医師：1,581名 （令和７年3 月までの累計）	○	増加 （令和11 年度）
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修を修了した医療従事者の増加	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会を修了した医療従事者	1,867 名 （令和5 年3 月までの累計）	その他の職種：2,141名 （令和７年3 月までの累計）	○	増加 （令和11 年度）
緩和ケアチームへの年間依頼件数の増加	緩和ケアチームへの年間依頼数	5,873 件 （令和3 年度）	－	―	増加 （令和11 年度）

【相談、情報提供、患者の生活支援】

がん相談支援センターの機能の充実	研修の受講者人数	28 人（令和４年９月１日時点）	42 人（令和6年９月１日時点）		〃
がん相談支援センターの認知度向上及び利用促進	新規の相談件数	22,049 件 （令和３年）	23,564 件 （令和5年）		〃
がん経験者等の参画による相談支援の充実	ピア・サポーターズサロンちばの開催回数 ピア・サポーターズの人数	開催回数24 回 人数117 人 （令和４年度）	開催回数24 回 人数140 人 （令和6年度）		〃
「千葉県がん情報 ちばがんなび」「千葉県がんサポートブック」の周知と充実	「千葉県がん情報 ちばがんなび」の啓発回数	啓発回数0 回 更新回数1 回 （令和４年度）	啓発回数2回 （令和６年度）		〃
患者の生活を支援する情報の提供	「千葉県がん情報 ちばがんなび」の更新回数	1 回 （令和４年度）	3回 （令和６年度）		〃
地域の状況に応じた地域緩和ケアの提供体制の構築	拠点病院等１施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	40 回 （令和３年）	44回 （令和5年）		〃
地域緩和ケアに携わる医療・介護従事者の人材育成と連携強化	在宅緩和ケアに関する研修会（千葉県がんセンター委託事業）	2 回 （令和４年度）	2 回 （令和６年度）		〃
在宅緩和ケアに関する情報提供、相談支援の充実	緩和ケアに関する社会資源調査	診療所136 施設 病院15 施設 訪問看護事業所248施設 （令和４年度）	診療所297施設 病院55施設 訪問看護事業所396施設 （令和６年度）		〃
がん相談支援センターの認知度向上	がん相談支援センターの認知度	病院利用 60% 患者会員 83% （令和5 年度）	－	―	増加 （令和11 年度）
がん相談支援センターの相談件数の増加	がん相談支援センターの相談件数	22,049 件 （R3.1.1～R3.12.31）	－	―	増加 （令和11 年度）
がん相談支援センター利用者の満足度向上	がん相談支援センター利用者の満足度	病院利用 91% 患者会員 96% （令和5 年度）	－	―	増加 （令和11 年度）
ピア・サポーターの活動の場の拡大	サロン開催病院数	対面開催16 箇所 （平成30 年度） ﾘﾓｰﾄ開催24 回 （令和4 年度）	対面開催14 箇所 ﾘﾓｰﾄ開催5 回 （令和6年度）	×	拡大 （令和11 年度）
「千葉県がん情報ちばがんなび」の認知度の増加	「千葉県がん情報ちばがんなび」の認知度	一般県民　10.1% がん患者（病院利用）　7% がん患者（患者会員）　53% （令和5 年度）	－	―	50% （令和11 年度）
住まいの場での死亡割合	住まいの場での死亡割合	28.5% （令和3 年） 16.9% （令和元年）	－	―	維持 （令和11 年度）
がん患者の看取りをする在宅療養支援診療所及び一般診療所数の増加	がん患者の看取りをする在宅療養支援診療所及び一般診療所数	136 か所 （令和4 年度）	234 か所 （令和６年度）	○	増加 （令和11 年度）

【がん登録】

全国がん登録の確実な運用	全国がん登録システムへの入力件数	69,820 件（令和４年度）	73,978件（令和６年度）		〃
全国がん登録の情報の活用	申請件数	4 件（令和４年）	9 件(令和６年度）		〃
	事業報告書の作成	作成した（令和元年）	作成した（令和２年）		〃
院内がん登録の精度向上	院内がん登録実務者研修会の参加人数	196 人（令和４年度）	114人（令和６年）		〃
院内がん登録データの分析と公表	院内がん登録集計数	２１施設（令和２年）	30施設（令和５年度）		〃
全国がん登録によるDCO率の減少	全国がん登録によるDCO率	1.6% （令和元年）	－	―	増加 （令和11 年度）
国の標準様式に基づく院内がん登録の実施医療機関数の増加	国の標準様式に基づく院内がん登録の実施医療機関数	41	－	―	増加 （令和11 年度）

※1：国の「第4期がん対策推進基本計画」に目標値が設定されていないため、県の目標値は「設定なし」としています。

●脳卒中

※モニタリング指標：ロジックモデルに位置づけ、目標を設定しない指標
脳血管疾患の患者数の推移などを把握し、千葉県循環器病対策推進協議会等の意見を踏まえながら、評価を行う。

【脳卒中の予防・正しい知識の普及啓発】

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
生活習慣と脳卒中の関係についての周知	20歳以上の者の1日あたりの食塩摂取量	男性 １０．９g 女性 ９．４g （平成２７年度）	－	－	男性 ７．５g 女性 ６．５g （令和１１年度）
	運動習慣者の割合	２０～６４歳 男性 ２９．７％ 女性 ２５．７％ ６５歳以上 男性 ４３．９％ 女性 ４０．１％ （令和元年度）	２０～６４歳 男性 ３８．９％ 女性 ３０．８％ ６５歳以上 男性 ５０．６％ 女性 ５０．４％ （令和６年度）	○	増加 （令和１１年度）
	20歳以上の者の喫煙率	男性 ２１．９％ 女性 ６．９％ （令和３年度）	男性 １７．７％ 女性 ５．８％ （令和６年度）	△	男性 １２．０％ 女性 ５．０％ （令和１１年度）
特定健診・特定保健指導による生活習慣病予防対策の推進	特定健康診査の実施率	健康診査 ５５．８％ （令和３年度）	－	―	健康診査 ７０％ （令和１１年度）
	特定保健指導の実施率	保健指導 ２２．７％ （令和３年度）	－	―	保健指導 ４５％ （令和１１年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
県民の健康状態が改善	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値の低下、内服加療中の者を含む、40歳以上）	男性１２７．６mmHg 女性１２３．１mmHg （令和２年度）	－	―	ベースライン値から低下 （令和１１年度）
	脂質異常症の減少（LDL-c160mg/dl以上の者、内服加療中の者を含む、40歳以上）	男性 １４．６％ 女性 １４．５％ （令和２年度）	－	―	ベースライン値から減少 （令和１１年度）
	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	男性６３２，６７０人 女性１９２，５２２人 （令和３年度）	－	―	減少 （令和１１年度）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
脳卒中を予防して発症する人が減少	健康寿命の延伸	男性 ７２．６１年 女性 ７５．７１年 （令和元年）	－	―	男性 ７４年 女性 ７６．８年 （令和１１年）
	受療率（人口１０万人対） （脳血管疾患）	１２３ （令和２年）	－	―	減少 （令和１１年）

【保健医療及び福祉に係るサービスの提供】

○急性期（搬送）

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
救急医療体制の整備	脳血管疾患における搬送困難事例の割合	１８．１％ （令和３年）	－	―	減少 （令和１１年）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
現場活動時間の短縮・病院搬送時間の短縮	脳血管疾患に係る現場活動時間（現場到着～現場出発）	２１．９分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）
	脳血管疾患に係る平均搬送時間（現場出発～医療機関到着）	１５．８分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
救急搬送時間の短縮	脳血管疾患に係る救急活動時間 （救急隊覚知～病院収容）	４７．５分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）

○急性期（治療）

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
効率的な専門医療体制の構築	脳梗塞に対する血栓回収療法の実施可能な医療機関数	３１機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
	脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施可能な医療機関数	４４機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
搬送後に速やかに専門的な治療を行っている	脳梗塞に対する血栓回収療法の実施件数	７５７件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
	脳梗塞に対するt-paによる血栓溶解療法の実施件数	７０２件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
脳卒中による死亡が減少	健康寿命の延伸（再掲）	男性 ７２．６１年 女性 ７５．７１年 （令和元年）	－	―	男性 ７４年 女性 ７６．８年 （令和１１年）
	脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少（10万人当たり）	男性 ９１．２ 女性 ５５．５ （令和２年）	－	―	減少 （令和１１年）

○回復期

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
脳卒中患者に対するリハビリテーション体制の整備	脳卒中患者にリハビリテーションを提供している医療機関数	１９１機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
急性期の治療後に質の高い医療を受けられている	回復期リハビリテーション病棟における実績指数	４８．０ （令和４年７月）	４８．８ （令和６年８月）	○	増加 （令和１１年）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
脳卒中を発症後も健やかに地域で暮らせる	在宅等の生活の場に復帰した患者の割合（脳血管疾患）	５３．２％ （令和２年）	－	―	増加 （令和１１年）

○維持期（生活期）

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
医療・介護の多職種連携の推進	在宅患者訪問診療実施診療所数・病院数	７５８箇所 （令和４年度）	７７６箇所 （令和６年度）	△	７８５箇所 （令和８年度）
	機能強化型訪問看護ステーション数	３４箇所 （令和５年度）	３９箇所 （令和６年度）	△	４２箇所 （令和８年度）
	脳卒中の診療を行う病院における地域医療連携パス（脳卒中）導入率	３４．６％ （令和５年８月）	―	―	増加 （令和１１年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
維持期（生活期）に切れ目のない医療・介護が提供されている	入退院支援実施件数	１４８，７２６件 （令和４年度）	１９６，５４７件 （令和６年度）	○	１８５，２７３件 （令和８年度）

●心血管疾患

C　個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【心血管疾患の予防・正しい知識の普及啓発】					
生活習慣と心血管疾患の関係についての周知	20歳以上の者の1日あたりの食塩摂取量	男性　１０．９g 女性　９．４g （平成２７年度）	－	－	男性　７．５g 女性　６．５g （令和１１年度）
	運動習慣者の割合	２０～６４歳 男性　２９．７% 女性　２５．７% ６５歳以上 男性　４３．９% 女性　４０．１% （令和元年度）	２０～６４歳 男性　３８．９% 女性　３０．８% ６５歳以上 男性　５０．６% 女性　５０．４% （令和６年度）	○	増加（令和１１年度）
	20歳以上の者の喫煙率	男性　２１．９% 女性　６．９% （令和３年度）	男性１７．７% 女性５．８% （令和６年度）	△	男性　１２．０% 女性　５．０% （令和１１年度）
特定健診・特定保健指導による生活習慣病予防対策の推進	特定健康診査の実施率	健康診査　５５．８% （令和３年度）	－	―	健康診査　７０% （令和１１年度）
	特定保健指導の実施率	保健指導　２２．７% （令和３年度）	－	―	保健指導　４５% （令和１１年度）
【保健医療及び福祉に係るサービスの提供】					
○急性期（応急処置・搬送）					
応急処置に関する知識・技術の普及	救命講習等受講者数	７．９万人 （令和３年）	－	―	１３万人 （令和８年）
救急医療体制の整備	心血管疾患における搬送困難事例の割合	１５．０% （令和３年）	－	―	減少 （令和１１年）
○急性期（治療）					
効率的な専門医療体制の構築	心筋梗塞に対する来院後90分以内冠動脈再開通を実施した医療機関数	３８機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
	大動脈疾患患者に対する手術を実施した医療機関数	２８機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
○リハビリテーション					
患者に対するリハビリテーション体制の整備	入院心血管疾患リハビリテーションの実施医療機関数	３７機関 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
○維持期（生活期）					
医療・介護の多職種連携の推進	在宅患者訪問診療実施診療所数・病院数	７５８箇所 （令和４年度）	７７６箇所 （令和６年度）	△	７８５箇所 （令和８年度）
	機能強化型訪問看護ステーション数	３４箇所 （令和５年度）	３９箇所 （令和６年度）	△	４２箇所 （令和８年度）
	外来心血管疾患リハビリテーションを実施している医療機関数	２０箇所 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）

B　中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
県民の健康状態が改善	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値の低下、内服加療中の者を含む、40歳以上）	男性１２７．６mmHg 女性１２３．１mmHg （令和２年度）	－	―	ベースライン値から低下 （令和１１年度）
	脂質異常症の減少（LDL-c160mg/dl以上の者、内服加療中の者を含む、40歳以上）	男性　１４．６% 女性　１４．５% （令和２年度）	－	―	ベースライン値 から減少 （令和１１年度）
	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の人数	男性６３２，６７０人 女性１９２，５２２人 （令和３年度）	－	―	減少 （令和１１年度）
現場活動時間の短縮・病院搬送時間の短縮	心血管疾患に係る現場活動時間（現場到着～現場出発）	２０．７分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）
	心血管疾患に係る平均搬送時間（現場出発～医療機関到着）	１６．５分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）
搬送後に速やかに専門的な治療を行っている	心筋梗塞に対する来院後90分以内冠動脈再開通件数	１，６７１件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
	大動脈疾患患者に対する手術件数	９０４件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
急性期の治療後に質の高い医療を受けられている	入院心血管疾患リハビリテーションの実施件数	１２９，９９５件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）
維持期（生活期）に切れ目ない医療・介護が提供されている	入退院支援実施件数	１４８，７２６件 （令和４年度）	１９６，５４７件 （令和６年度）	○	１８５，２７３件 （令和８年度）
	外来心血管疾患リハビリテーションの実施件数	１１，２８９件 （令和３年度）	－		（モニタリング指標※）

A　分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
心血管疾患を予防して発症する人が減少	健康寿命の延伸	男性７２．６１年 女性７５．７１年 （令和元年）	－	―	男性７４年 女性７６．８年 （令和１１年）
	受療率（人口１０万人対）（心疾患（高血圧性のものを除く））	１１４件 （令和２年）	－	―	減少 （令和１１年）
救急搬送時間の短縮	心血管疾患に係る救急活動時間（救急覚知～病院収容）	４６．６分 （令和３年）	－	―	短縮 （令和１１年）
心血管疾患による死亡が減少している	健康寿命の延伸（再掲）	男性７２．６１年 女性７５．７１年 （令和元年）	－	―	男性７４年 女性７６．８年 （令和１１年）
	心疾患（高血圧性を除く）による年齢調整死亡率	男性２００．２ 女性１１６．３ （令和２年）	－	―	減少 （令和１１年）
心血管疾患を発症後も速やかに地域で暮らせる	在宅等の生活の場に復帰した患者の割合（虚血性心疾患）	９５．２% （令和２年）	－	―	増加 （令和１１年）

●糖尿病

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【生活習慣と糖尿病の関係についての周知】					
生活習慣と糖尿病の関係についての周知	運動習慣者の割合	２０～６４歳 男性 ２９．７% 女性 ２５．７% ６５歳以上 男性 ４３．９% 女性 ４０．１% （令和元年度）	２０～６４歳 男性 ３８．９% 女性 ３０．８% ６５歳以上 男性 ５０．６% 女性 ５０．４% （令和６年度）	○	増加 （令和１１年度）
	日常生活における歩数	２０～６４歳 男性 ７，２５３歩 女性 ６，８２１歩 ６５歳以上 男性 ６，０２３歩 女性 ４，８１５歩 （平成２７年度）	－	―	ベースライン値から増加 （令和１１年度）
	20歳以上の者の喫煙率	男性 ２１．９% 女性 ６．９% （令和３年度）	男性１７．７% 女性５．８% （令和６年度）	△	男性 １２．０% 女性 ５．０% （令和１１年度）
【特定健診・特定保健指導による生活習慣病予防対策の推進】					
特定健診・特定保健指導による生活習慣病予防対策の推進	特定健康診査の実施率	健康診査 ５５．８% （令和３年度）	－	―	健康診査 ７０%以上 （令和１１年度）
	特定保健指導の実施率	保健指導 ２２．７% （令和３年度）	－	―	保健指導 ４５%以上 （令和１１年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
県民の健康状態が改善している	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の数	男性６３２，６７０人 女性１９２，５２２人 （令和３年度）	－	―	減少 （令和１１年度）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
糖尿病を予防できている	糖尿病有病者の増加の抑制	３３０，０００人 （令和４年度）	-	―	３７３，７００人 ※2 （令和１０年度）

※2 現状の増加トレンドが続くと仮定した場合の有病者数から6.7%の抑制を図ることを目指した数値（『健康日本21（第三次）推進のための説明資料』（令和5 年5 月、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会ほか）より）

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【重症化防止に向けた取組の支援】					
重症化防止に向けた取組の支援	特定健診での受診勧奨により実際に医療機関へ受診した糖尿病未治療患者の割合※１	定義１ ２９．１% 定義２ ２５．５% （令和３年）	－	―	増加 （令和９年）
	糖尿病専門外来を有する病院の割合	４５．６% （令和５年９月）	－	―	増加 （令和１１年度）
	糖尿病の診療を行う病院における糖尿病連携手帳又は地域医療連携パス（糖尿病）の使用率	３６．０% （令和５年９月）	－	―	増加 （令和１１年度）
	糖尿病の重症化予防に取り組む市町村数（保険者努力支援制度において当該取組に係る評価指標を達成した市町村数）	５２市町村 （令和５年度	５０市町村 （令和６年度）	×	５４市町村 （令和１１年度）

※１【定義１】分母①：過去６か月間糖尿病関連のレセプトが無く、特定健診データで空腹時血糖１２６mg/dL 以上又は随時血糖２００mg/dL を満たす、若しくは HbA1c ６．５%以上の者
分子：分母に該当する患者のうち、特定健診後６か月以内に医療機関を受診し糖尿病関連のレセプトが新規に発生した者
【定義２】分母②：分母①かつ、医療機関の定期受診がない者（健診受診時の自己申告にて降圧薬・脂質改善薬の内服歴、脳血管・心血管障害の既往歴及び透析歴のないもの、かつ健診受診前年度４月から健診受診前月までに医療機関の外来受診から回以内）
分子：分母②に該当する患者のうち、特定健診後６か月以内に医療機関を受診し糖尿病関連のレセプトが新規に発生した者

【他疾患で治療中の患者の血糖管理を適切に実施する体制の整備】

他疾患で治療中の患者の血糖管理を適切に実施する体制の整備	糖尿病の診療を行う病院における糖尿病連携手帳又は地域医療連携パス（糖尿病）の使用率【再掲】	３６．０% （令和５年９月）	－	―	増加 （令和１１年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
糖尿病の治療を継続できている	治療継続者の割合	８８．８% （令和３年度）	８８．５% （令和６年度）	×	９５．０% （令和１１年度）
糖尿病の合併症が起きていない、重症化していない	糖尿病治療を主にした入院の発生（DKA・昏睡・低血糖などに限定）（糖尿病患者1年当たり）	２３２．６ （令和３年度）	－	―	２１３．１ （令和９年度）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
糖尿病重症者が減少している	糖尿病性腎症に対する新規人工透析導入患者数	８０６人 （令和３年末）	－	―	減少 （令和１１年度）
	糖尿病の年齢調整死亡率	男性 １６．５ 女性 ７．７ （令和２年）	－	―	男性 １３．９ 女性 ６．９ （令和１１年）

●精神医療（認知症除く）

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値	B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値	A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【精神障害にも対応した地域生活支援の推進】																	
相談支援窓口の周知と機能の充実	精神保健福祉センターにおける訪問指導の延人数	４１人 （令和４年度）	５人 （令和６年度）	×	５０人 （令和１１年度）												
【急性期を終え、地域移行へ向けての医療体制の導入】																	
地域移行推進医療機関の認定	精神障害者地域移行・地域定着協力病院数	２５病院 （令和５年４月）	２５病院 （令和７年３月）	⇒	２７病院 （令和１１年度）	早期退院ができる	精神病床における入院後3,6,12ヶ月時点の退院率	・　３ヶ月　６７．２％ ・　６ヶ月　８１．６％ ・１２ヶ月　８８．４％ （令和元年度）	-	—	・　３ヶ月　７０％ ・　６ヶ月　８６％％ ・１２ヶ月　９２％ （令和８年度）	治療中断せず、治療を効果的に受けながら地域で生活できる	精神障害者の精神病床から退院後１年以内の地域での平均生活日数	３３０．０日 （令和元年度）	-	—	３３２．４日 （令和7年度）
アウトリーチの推進	精神疾患の訪問看護を実施している医療機関数（認知症を除く）	１５４施設 （令和２年度）	２２１施設 （令和６年６月）	○	１６５施設 （令和１１年度）		退院患者平均在院日数（精神病床）	３１２．０日 （令和４年度）	３０２．８日 （令和６年度）	○	３０５．０日 （令和１１年度）						
	精神疾患の訪問看護利用者数（認知症を除く）	５，０６４人 （令和４年６月）	６，８２２人 （令和６年６月）	○	５，２８０人 （令和１１年度）		在院期間5年以上、かつ65歳以上退院者数（1月当たりの退院者数）	１６人 （令和４年６月）	１８人 （令和６年６月）	△	２２人 （令和１１年）						
							精神病床における新規入院患者数の平均在院日数	１０４．８日 （令和元年度）	-	—	１０３．６日 （令和7年度）						
【急性期医療体制の整備】																	
急性期に対応できる医療提供体制	精神科救急基幹病院数	１４病院 （令和５年７月）	１４病院 （令和７年３月）	○	１４病院 （令和１１年度）	適切な治療を受けることができている	精神病床における急性期・回復期・慢性期入院患者数（65歳以上・65歳未満別）	・急性期　１，７０１人 ・回復期　１，３７８人 ・慢性期　６，４６０人 （６５歳以上：３，９２４人） （令和４年６月末）	・急性期　１，６９９人 ・回復期　１，３６５人 ・慢性期　５，８８３ （６５歳以上：３，５４４人） （令和６年６月末）	△	・急性期　２，２２３人 ・回復期　１，７９０人 ・慢性期　４，９５２人 （６５歳以上：２，６７１人） （令和８年）	発症から精神科受診までの時間の短縮化で自傷他害行為を防ぐ	自殺死亡率	１６．６ （令和２～４年平均）	-	—	１３．０ （令和６～８年平均）
	精神科救急身体合併症に対応できる施設数	５病院 （令和５年７月）	５病院 （令和７年３月）	⇒	６病院 （令和１１年度）												
	救命救急センターで「精神科」を有する施設数	１４箇所 （令和５年４月）	１４病院 （令和７年４月）	⇒	１５箇所 （令和１１年度）												
専門性の高い治療実績	治療抵抗性統合失調症治療薬を精神病床の入院で使用した病院数	２２病院 （令和２年度）	－	—	２４病院 （令和９年度）												
	統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率	１．１８％ （令和２年度）	－	—	１．８８％ （令和９年度）												

●認知症

C個別施策	指標	計画改定時の数値（令和４年度）	現状値	指標の動向	目標値（令和８年度）
【認知症の人、家族、地域住民の理解促進】					
チームオレンジちば促進事業	チームオレンジ設置市町村数	１７市町村	－	―	５４市町村
認知症サポーターの養成	認知症サポーター数	６０４，２３１人（令和４年度累計）	688,961人（令和６年度累計）	△	７５３，０００人（令和８年度累計）
キャラバンメイトの養成	キャラバン・メイト数	４，８４５人（令和４年度累計）	5,205人（令和６年度累計）	△	５，５６０人（令和８年度累計）
【早期発見・早期対応】					
認知症初期集中支援チームの市町村への支援	認知症初期集中支援チームフォローアップ研修修了者数	３８４人（令和４年度累計）	542人（令和６年度累計）	△	７５０人（令和８年度累計）
専門性の高い医療提供体制、人材育成(再掲)	認知症サポート医の養成人数（再掲）	６００人（令和４年度累計）	674人（令和６年度累計）	△	７２０人（令和８年度累計）
	かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数	１，４２３人（令和４年度累計）	1,588人（令和６年度累計）	△	１，８３０人（令和８年度累計）
【医療提供体制】					
専門性の高い医療提供体制、人材育成	認知症サポート医の養成人数（再掲）	６００人（令和４年度累計）	674人（令和６年度累計）	△	７２０人（令和８年度累計）
	かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数（再掲）	１，４２３人（令和４年度累計）	1,588人（令和６年度累計）	△	１，８３０人（令和６年度累計）
	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修修了者数	４，５８１人（令和４年度累計）	5,117人（令和６年度累計）	△	６，１８１人（令和８年度累計）
	病院勤務以外の看護師等に対する認知症対応力向上研修修了者数	１６６人（令和４年度累計）	854人（令和６年度累計）	△	１，１２０人（令和８年度累計）
	歯科医師認知症対応力向上研修修了者数	１，１７７人（令和４年度累計）	1,296人（令和６年度累計）	△	１，５５０人（令和８年度累計）
	薬剤師認知症対応力向上研修修了者数	１，７０２人（令和４年度累計）	2,003人（令和６年度累計）	△	２，４５０人（令和８年度累計）
	看護職員認知症対応力向上研修修了者数	４３５人（令和４年度累計）	621人（令和６年度累計）	△	１，０７５人（令和８年度累計）
【認知症の人・家族への相談支援体制の構築】					
交流の場の市町村への支援	認知症カフェ実施市町村数	４９市町村（令和４年度）	－	―	５４市町村（令和８年度）
ちば認知症相談コールセンターの設置	ちば認知症相談コールセンターの電話相談件数・面接相談件数	１，１５０件（令和４年度）	1,494件（令和６年度）	○	１，３１０件（令和８年度）
若年性認知症支援コーディネーターの配置	若年性認知症支援コーディネーターによる相談件数	６２２件（令和４年度）	409件（令和６年度）	×	６５０件（令和８年度）
【医療と介護・福祉分野における多職種の地域連携】					
認知症地域支援推進員の活動促進	認知症地域支援推進員研修修了者数	８２人（累計）	240人	△	４４０人（累計）
認知症介護実践研修の実施	認知症介護実践研修受講者数 （千葉市を除く。）	５，４５４人（累計）	5,965人	△	６，３８２人（累計）
認知症専門職における多職種協働研修	認知症専門職における多職種協働研修受講者数	１２８人（令和４年度）	126人（令和６年度）	×	１５０人（令和８年度）
千葉県オレンジ連携シートの普及	「千葉県オレンジ連携シート」の使用枚数	２９９枚（令和４年度）	－	―	６５０枚（令和８年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値（令和４年度）	現状値	指標の動向	目標値（令和８年度）
住み慣れた地域で暮らすことができる	チームオレンジのチーム数	６９チーム	-	―	１４０チーム
適切な治療を受けることができている	認知症疾患医療センターの鑑別診断件数（千葉市を除く。）	３，３５２件	４，０３８件	○	３，９５０件
認知症患者・家族が必要な支援を受け、生活することができている	本人・家族交流会の参加者数	２６３人	２７４人	△	３４０人
	若年性認知症カフェへの参加者数	１５０人	１３９人	×	１７０人

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値（令和４年度）	現状値	指標の動向	目標値（令和８年度）
地域で自分らしく安心して暮らすことができる	高齢者が安心して暮らせる高齢者施策についての県民の満足度	11%	16.4%	△	35%

●救急医療

（１）病院前救護

【応急処置に関する知識・技術の普及】

C　個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値	B　中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値	A　分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
応急処置に関する知識・技術の普及	救命講習等受講者数	約７９，０００人 （令和３年）	－	―	約１３１，０００人 （令和１１年度）	一般市民による心肺蘇生やAED使用が行われている	心肺停止状態で見つかった者（心原性、一般市民の目撃者有り）のAED使用率	５．３％ （令和３年）	－	―	１０．０％ （令和１１年）	救命率が向上している	心肺停止状態で見つかった者（心原性、一般市民の目撃者有り）の１か月後の生存率	１２．４％ （令和３年）	－	―	２０．０％ （令和１１年）
	情報提供の対象となっているAEDの台数 （『街の情報館』で情報提供しているAED台数）	７，７９０台 （令和５年度）	８，６２８台 （令和６年）	○	８，１００台 （令和１１年度）												

【救急医療の適正利用についての普及啓発】

救急搬送にかかる負担が軽減されている	救急安心電話相談件数	３８，２５３件 （令和４年度）	４７，８５８件 （令和６年度）	△	５０，０００件 （令和１１年度）	救急搬送時間が短縮されている	救急隊覚知からの医療機関等収容所要時間の平均	４９．７分 （令和３年）	－	―	４２．８分 （令和１１年）

【ドクターヘリ及びドクターカーの活用】

ドクターヘリの効果的活用	ドクターヘリの出動件数	１，５３１回 （令和４年度）	１，４７３回 （令和６年度）	×	１，６５０回 （令和１１年度）

【救急医療情報の提供】

ちば救急医療ネットの利用向上	ちば救急医療ネットの検索機能実施件数	７７，７９９件 （令和４年度）	８１，１５８件 （令和６年度）	△	８３，０００件 （令和１１年度）

（２）救急医療（初期～三次）

【二次救急医療体制の充実】

救急科の医療従事者の確保	医療施設従事医師数（救急科） （人口１０万対）	３．６ （令和２年）	３．２ （令和４年）	×	５．６ （令和１０年）	救命救急センターの体制が整っている	救命救急センター充実段階評価S割合	２８．６％ （令和４年）	－	―	４０．０％ （令和１１年）

●災害時における医療

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【災害医療提供体制の整備】					
重症傷病者の受入れ態勢の確保	多数傷病症に対応可能なスペースを有する災害拠点病院の割合	９２．６％ （令和５年度）	９６．３％ （令和６年度）	○	増加 （令和１１年度）
【DMAT等及び医療救護班の体制整備】					
DMAT等の体制整備	災害派遣医療チーム （ＤＭＡＴ）のチーム数	５１チーム （令和５年度）	６０チーム （令和６年度）	○	６０チーム （令和１１年度）
	災害派遣医療チーム （ＤＭＡＴ）の構成員数	３０３名 （令和５年度）	３４６名 （令和６年度）	△	３６０名 （令和１１年度）
	千葉県地域災害派遣医療チーム（CLDMAT）のチーム数	１７チーム （令和５年度）	２６チーム （令和６年度）	△	２７チーム （令和１１年度）
	千葉県地域災害派遣医療チーム（CLDMAT）の構成員数	１５１名 （令和５年度）	２３９名 （令和６年度）	○	２００名 （令和１１年度）
【精神科領域における災害医療体制の整備】					
PTSD発生予防の推進	災害派遣精神医療チーム（ＤＰＡＴ）のチーム数	３８チーム （令和５年度）	４８チーム （令和６年度）	△	５０チーム （令和１１年度）
	災害派遣精神医療チーム（ＤＰＡＴ）の構成員数	１７０名 （令和５年度）	２２０名 （令和６年度）	△	２８０名 （令和１１年度）
【災害医療コーディネーター等の整備】					
災害時の保健医療提供体制の効率的な調整	災害医療コーディネーターの任命者数	１１名 （令和５年度）	１１名 （令和６年度）	⇒	２７名 （令和１１年度）
	地域災害医療コーディネーターの任命者数	３６名 （令和５年度）	４２名 （令和６年度）	○	増加 （令和１１年度）
【医療施設の耐震化等の促進】					
医療施設の耐震化の促進	医療施設（病院）の耐震化率	７９．７％ （令和４年度）	－	―	増加 （令和１１年度）
医療施設の浸水対策の推進	浸水想定区域や津波災害警戒区域に所在する病院において浸水対策を講じている災害拠点病院の割合	６２．５％ （令和５年度）	-	―	１００％ （令和１１年度）
【EMISを活用した情報収集等】					
ＥＭＩＳを活用した収集	広域災害・救急医療情報システム（EMIS）への登録率	１００％ （令和４年度）	１００％ （令和６年度）	○	現状維持 （令和１１年度）
【慢性疾患患者に対する医療救護体制の整備】					
人工透析を必要とする慢性疾患患者等の円滑な治療・収容	人工透析を必要とする慢性疾病患者を受入れる体制のある災害拠点病院の割合	７４．０４％ （令和５年度）	８１．５％ （令和６年度）	○	増加 （令和１１年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
地域の災害医療整備体制の維持・強化	被災した状況を想定した災害実働訓練を実施した病院の割合	３２．０７％ （令和５年度）	-	―	増加 （令和１１年度）

A分野アウトカム	指標
※A分野アウトカム（成果指標）については、災害医療分野では毎年度に数値を追うことが不可能なため記載しない	

●新興感染症発生・まん延時における医療

C個別施策	指標	計画改定時の数値（令和６年度）※2	現状値	指標の動向	目標値（令和１１年度）
【病床】					
病床の確保	各協定締結医療機関（入院）における確保可能病床数（流行初期）	－	１，１１３床 （R7.3.31）	○	６４０床
病床の確保	各協定締結医療機関（入院）における確保可能病床数（流行初期以降）	－	１，４７７床 （R7.3.31）	○	１，４００床
【発熱外来】					
発熱外来の確保	各協定締結医療機関（発熱外来）の機関数（流行初期）	－	１，３６４機関 （R7.3.31）	○	４６０機関
発熱外来の確保	各協定締結医療機関（発熱外来）の機関数（流行初期以降）	－	１，４５８機関 （R7.3.31）	△	１，５００機関
【自宅療養者等への医療の提供】					
自宅療養者等への医療の提供行う医療機関の確保	自宅・宿泊療養施設・高齢者施設での療養者等へ医療を提供する機関数（流行初期以降）	－	３，３６３機関 【内数】 病院 ９６機関 診療所 ７９９機関 薬局 ２，１４０機関 訪問看護ステーション３２８機関	○	２，８４０機関 【内数】 病院 ８０機関 診療所 ８８０機関 訪問看護ステーション２６０機関 薬局 １，６２０機関
【後方支援】					
後方支援を行う医療機関の確保	後方支援の協定を締結する医療機関数（流行初期以降）	-	１４３機関 （R7.3.31）	○	１３０機関
【医療人材の確保人数】					
医療人材の確保	派遣可能な人数（流行初期以降）	-	２３９人 【内数】 医師 １０５人 看護師 １３４人	○	１５０人 【内数】 医師 ５０人 看護師 １００人

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値（令和６年度）	現状値	指標の動向	目標値（令和１１年度）
【医療従事者等の研修・訓練回数】					
医療従事者等が新興感染症の対応に係る研修・訓練を受けることができている	協定締結医療機関（人材派遣）において年１回以上研修及び訓練の実施又は参加した割合	－	－	―	100%

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値（令和６年度）	現状値	目標値（令和１１年度）

【個人防護具の備蓄を十分に行う医療機関の数】

個人防護具の備蓄を十分に行う医療機関の確保	協定締結医療機関（病院・診療所・訪問看護ステーション）のうち、当該施設の使用量２カ月分以上にあたる個人防護具の備蓄を行う機関の割合	-	７８％ （R7.3.31）	△	８０％以上

※2：R6.4月施行の感染症法改正により医療措置協定が規定されたことから、計画策定時（R6.3）の実績値はありません。

●周産期医療

（１）周産期医療体制の整備推進

【周産期医療従事者の人材確保と育成】

C　個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
産科医師・新生児医療担当医師・看護師・助産師の確保・育成	分娩千件当たり分娩取扱医師数	９．５ （令和２年度）	１６．５ （令和６年）	○	増加 （令和８年度）
	就業助産師数（出生千対）	３９．４ （令和２年）	４７．５ （令和６年）	△	４８．０ （令和１０年）
	アドバンス助産師数	２８２人 （令和５年度）	２７７人 （令和６年）	×	増加 （令和１１年度）
	新生児集中ケア認定看護師数	１７人 （令和４年度）	１８人 （令和６年）	○	増加 （令和１１年度）

【周産期母子医療センターの整備・支援、ＮＩＣＵの整備】

適切な水準の数の分娩実施医療機関の維持	分娩実施施設数（１５～４９歳女子人口１０万対）	7か所 （令和２年度）	7か所 （令和６年）	○	7か所 （令和１１年）
地域特性を踏まえた周産期母子医療センターの認定	周産期母子医療センターの数	１２箇所 （令和５年度）	１２箇所 （令和６年）	⇒	１３箇所 （令和１１年度）
「周産期医療の体制構築に係る指針」に基づくNICUの整備促進	NICU整備数 ※診療報酬対象	１４７床 （令和４年度）	１４７床 （令和６年）	⇒	１５１床 （令和１１年度）

（２）周産期医療連携の推進

【ハイリスク妊産婦等を対象とした周産期搬送体制の整備】

ICTを利活用した母体搬送システムの活用	搬送コーディネート件数における妊産婦入院調整業務支援システムの利用割合	９１．７% （令和４年度）	１００% （令和６年）	○	１００% （令和１１年度）

B　中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
ローリスクの妊娠・分娩において、出産→成長の各段階に必要な医療を安全に受けることができる	産後訪問指導を受けた割合	４２．５% （令和３年）	-	―	４５．０% （令和１１年）
母体搬送先の選定が最適化できている	分娩数に対する病院間搬送件数の割合（分娩数千対）	２５．１ （令和３年）	２８．９ （令和６年）	×	減少 （令和１１年）

A　分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
妊産婦・新生児の死亡・後遺症の発生が減少している	妊産婦死亡率（出産１０万対）	９．８ （令和２年）	５．８ （令和６年）	△	２．７ （令和１１年）
	後期死産率（出生千対）	２．７ （令和３年）	３．５ （令和６年）	×	２．０ （令和１１年）
	早期新生児死亡率（出生千対）	０．６ （令和３年）	０．４ （令和６年）	○	０．５ （令和１１年）
	新生児死亡率（出生千対）	０．８ （令和３年）	０．６ （令和６年）	○	０．６ （令和１１年）

●小児医療

C　個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【小児救急医療啓発事業の実施、小児救急電話相談事業の充実・強化】					
小児患者の保護者等からの夜間の救急電話相談への対応	小児救急電話相談件数	４８，４３０件 （令和４年度）	５１，４３９件 （令和６年度）	△	６０，０００件 （令和１１年度）
【医師の働き方改革への対応】					
小児科の医療従事者の確保	医療施設従事医師数（小児科）（１５歳未満人口１０万対）	９５．４ （令和２年度）	１０１．５ （令和６年度）	○	増加 （令和８年度）
【小児救急医療体制の整備・充実】					
（初期） 夜間・休日に小児初期救急患者を受け入れる小児初期救急センターの整備・運営支援	小児初期救急センターの数	３４か所 （令和４年度）	３２か所 （令和６年度）	×	３６か所 （令和１１年度）
【小児二次・三次医療体制の整備・充実、小児救命救急センターの充実・強化】					
（二次） 夜間・休日に複数医療圏の小児二次救急患者を受け入れる小児救急医療拠点病院の運営支援	二次以上の小児救急患者に対応できる医療機関数	３２か所 （令和４年度）	３２か所 （令和６年度）	⇒	３３か所 （令和１１年度）
（三次） PICU（小児集中治療室）の整備への助成	PICUの病床数	２５床 （令和４年度）	－	―	２７床 （令和１１年度）
（三次） 小児救命救急センターの整備・運営等、三次小児救急を受け入れる医療機関への支援	三次以上の小児救急患者に対応できる医療機関数	１５か所 （令和４年度）	１５か所 （令和６年度）	⇒	１６か所 （令和１１年度）

B　中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
救急搬送（小児患者）にかかる医療機関の負担が軽減されている	救急搬送件数（小児患者）	２，６１２件 （令和３年９月～１０月）	－	―	減少 （令和１１年度）
小児の重症度に応じた万全の救急搬送受入体制が構築されている	搬送困難事例（受入交渉回数５回以上または現場滞在時間３０分以上）	１９５件 （令和３年９月～１０月）	－	―	減少 （令和１１年度）

A　分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
小児死亡率の減少	乳児死亡率（出生千体）	２．１ （令和３年）	１．６ （令和６年）	○	１．７ （令和１１年）
	乳幼児（５歳未満）死亡率（出生千体）	０．５ （令和３年）	０．３８ （令和６年）	○	０．４４ （令和１１年）
	小児（１５歳未満）の死亡率（出生千体）	０．１９ （令和３年）	０．１８ （令和６年）	△	０．１６ （令和１１年）

●在宅医療

C個別施策	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
【退院支援】					
医療・介護の多職種連携の促進	入退院支援を実施している診療所・病院数	147 か所 （令和4年度）	155 か所 （令和6年度）	△	165 か所 （令和8 年度）
【日常の療養支援】					
在宅療養支援体制の確保	在宅患者訪問診療実施診療所・病院数	758 か所 （令和4年度）	776 か所 （令和6年度）	△	785 か所 （令和8 年度）
	在宅患者訪問診療（居宅）実施歯科診療所数	433 か所 （令和2年度）	－	―	505 か所 （令和8 年度）
	訪問歯科衛生指導を実施している施設数	202 か所 （令和2年度）	－	―	250 か所 （令和8 年度）
	在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局数	2,252 か所 （令和5年度）	2,339か所 （令和6年度）	△	2,438 か所 （令和8 年度）
	居宅療養管理指導実施薬局数（介護予防居宅療養管理指導含む）	1,314 か所 （令和4年度）	1,530か所 （令和6年度）	○	1,426 か所 （令和8 年度）
	訪問看護ステーション数	527 か所 （令和4年度）	601 か所 （令和5年度）	△	615 か所 （令和8 年度）
	訪問リハビリテーション（介護保険）実施施設数	181 か所 （令和4年度）	200 か所 （令和6年度）	△	243 か所 （令和8 年度）
在宅医療を担う医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師等の増加、質の向上	訪問看護ステーションで業務に従事している看護職員数	3,148 人 （令和3年度）	－	―	5,333 人 （令和8 年度）
	（再掲）在宅患者訪問診療実施診療所・病院数	758 か所 （令和4年度）	776 か所 （令和6 度）	△	785 か所 （令和8 年度）
	（再掲）在宅患者訪問診療（居宅）実施歯科診療所数	433 か所 （令和2年度）	－	―	505 か所 （令和8 年度）
	（再掲）訪問歯科衛生指導を実施している診療所・病院数	202 か所 （令和2年度）	－	―	250 か所 （令和8 年度）
	（再掲）在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局数	2,252 か所 （令和5年度）	2,339か所 （令和6年度）	△	2,438 か所 （令和8 年度）
	（再掲）居宅療養管理指導実施薬局数（介護予防居宅療養管理指導含む）	1,314 か所 （令和4年度）	1,530か所 （令和6年度）	○	1,426 か所 （令和8 年度）
	（再掲）訪問看護ステーション数	527 か所 （令和4年度）	601 か所 （令和6年度）	△	615 か所 （令和8 年度）
	（再掲）訪問リハビリテーション（介護保険）実施施設数	181 か所 （令和4年度）	200 か所 （令和6年度）	△	243 か所 （令和8 年度）
災害時にも適切な医療を提供するための支援体制の確保	業務継続計画（BCP）を策定している機能強化型在宅療養支援病院の割合	18.5% （令和5年度）	―	―	100% （令和8 年度）
市町村の在宅医療・介護連携の取組への支援	在宅医療・介護連携の推進に取り組む市町村への支援（研修参加者数）	122 人 （令和4年度）	202人 （令和6年度）	○	150 人 （令和8 年度）
【急変時の対応】					
在宅医療に対する医師等の負担の軽減	往診を実施している診療所・病院数	981 か所 （令和4年度）	949 か所 （令和6年度）	×	1,131 か所 （令和8 年度）
	在宅療養後方支援病院数	18 か所 （令和5年度）	22 か所 （令和6年度）	○	19 か所 （令和8 年度）
	機能強化型訪問看護ステーション数	34 か所 （令和5年度）	39 か所 （令和6年度）	△	42 か所 （令和8 年度）
【看取り】					
在宅等での看取りを可能とする医療提供体制の整備	在宅看取り実施診療所・病院数	548 か所 （令和4年度）	550 か所 （令和6年度）	△	685 か所 （令和8 年度）
患者が望む場所で看取りができる環境づくり	ターミナルケア実施診療所・病院数	358 か所 （令和4年度）	384 か所 （令和6年度）	△	395 か所 （令和8 年度）

B中間アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
入院中の患者が、安心、納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できる	入退院支援実施件数	148,726 件 （令和4年度）	196,547 か所 （令和6年度）	○	185,273 件 （令和8 年度）
	在宅患者訪問診療実施件数	853,770 件 （令和4年度）	1,011,805 か所 （令和6年度）	△	1,069,219 件 （令和8 年度）
	歯科訪問診療実施件数	33,300 件 （令和2年度）	－	―	55,000 件 （令和8 年度）
	訪問看護ステーションの利用者数	38,633 人/月 （令和4年度）	－	―	52,875 人/月 （令和8 年度）
	訪問リハビリテーション（介護保険）実施件数	32,372 件 （令和4年度）	29,088件 （令和6年度）	×	53,253 件 （令和8 年度）
患者が急変時においても適切な医療が受けられ、安心して住み慣れた地域で最期を迎えられる	往診実施件数	103,887 件 （令和4年度）	124,450 か所 （令和6年度）	○	119,705 件 （令和8 年度）
	在宅での看取り数（看取り加算・死亡診断加算）	11,068 件 （令和4年度）	11,577 か所 （令和6年度）	△	12,450 件 （令和8 年度）
	ターミナルケア実施数	8,714 件 （令和4年度）	9,069 か所 （令和6年度）	△	9,802 件 （令和8 年度）

A分野アウトカム	指標	計画改定時の数値	現状値	指標の動向	目標値
年齢、病気・障害の有無にかかわらず、住み慣れた土地で自分らしい生活を送れている	介護が必要になっても自宅や地域で暮らし続けられると感じる県民の割合	31.6% （令和4年度）	30.4% （令和6年度）	×	50.0% （令和8年度）